

Akatake Times

Vol. 9
(通算 第162号)

早いもので、今年も残すところあと2ヶ月足らず。でも、裏を返せば「まだ2ヶ月近くある」とも言えます。今年1年を気持ちよく締め括るためにも、残りの日数を有効に使い、様々なことにチャレンジしていきましょう！



『さざれ石』



「君が代」は、小さな石が岩となり、その上に苔が生えるほどに、この国が永く平和で繁栄することを願って作られたとされています。「君が代」に詠われているさざれ石は、日本の七高山、岐阜県伊吹山のふもとにあり、学名を石灰質角礫岩と言います。これは石灰石が長い年月の間に雨水で溶解され、その時に生じた粘着力の強い乳状液(鍾乳石と同質)が次第に小石を凝結してだんだん巨岩となり、河川の浸食作用により地表に露出し苔むしたものだそうです。

このさざれ石は、今年の8月に山口県のある会社にて作業に行った際に紹介して頂いたものです。石灰石と聞くと、我が社の主力商品のハイフローを消石灰を用い使用されているお客様が多いので、さざれ石と我が社の機械が何か深い繋がりが有る様に思え、暫くその場で眺めていました。

「君が代」を詠う機会も今はあまり有りませんが、聞く時には今までとは何か違う静粛な気持ちで聞ける様に感じました。

撮影日時: 2015年8月21日 撮影者: 川口さん

飽き満ちる



酷暑も忘却の彼方に…。過ごしやすい季候となりました。
田園風景に目をやると黄金に輝いた稲穂もすっかり見えなくなっていました。
当地は台風の被害など大過なく実りの秋を迎え、まずまずの収穫であったと思います。
秋の語源を探ると、空の色が「清明(あきらか)」とする説。穀物などの収穫が「飽き満ちる(あきみちる)」
季節からとする説。紅葉などに使われる「紅(あか)」が転じたとする説があるようです。私は、生活感
あふれる「飽き満ちる」がふさわしいような気がします。どうぞ。

11月に入り今年も余すところ2ヶ月となりました。『意識を変え！ やり方を変え！ 業績を変えよう！』の
経営スローガンのもと我が社は、相応の成果を上げることができたことをまずもって感謝します。
ですが、ここで大事なことは、何を・どうして・どのようにして変えたから成果が出たのかをしっかりと捉えて
おかなければならない、ということです。次へのステップに向かうには絶対必要なことです。なんとなく、
運が良かったからでは済まされません。また、これは会社がではなく、各部署がでもなく、個人が
どう変わったことに起因するのをも極めて重要な分析要素です。今後も、**どのように変えていくのか、
どのように変わったのか**にポイントを絞って見ていきたいと考えています。

話は変わりますが、先日の静岡新聞に掲載された記事に私は大層注目しました。

「大企業の開放特許、中小での活用後押し」の見出しです。

川崎市の知的財産交流事業「川崎モデル」の導入を、富士宮市が富士宮信用金庫と連携し進めて
いるとのこと。

大企業は休眠状態だった特許の使用料を期待でき、中小企業は開発費や手間を省ける利点がある。

川崎市は、やる気のある企業に対するおせっかい、えこひいきがポイントである。

富士宮市商工振興課は今まで、中小企業の産業戦略は十分でなかった。

地域の産業力を高める契機にしたい。

おおよそ、このような内容でした。今、中小企業は技術の継承、後継者不在問題、労働力不足、受注減、
新規事業の模索…等々の課題の中で生き残りを賭け必死に戦っているわけです。川崎市、富士宮市
の両市と信金が一体となって中小企業支援に取り組む姿勢に感動しますし、今後期待したいと思っ
ています。

10月5日に行われた三島信用金庫主催の「夢企業大賞」表彰式に、増島営業
部長、落合営業社員と出席をまいりました。我が社はこの「夢企業大賞」に
『開発品・パウダーワープF』で応募し、幾多の中から**「ものづくり部門」での
最優秀賞を獲得**することができました。表彰状、盾、賞金をいただき、また挨拶も
させていただき感激でした。このような賞をいただくことは対外的なPRも
さることながら社内のモチベーションが上がります。この企画は、中小企業育成の
一環として素晴らしい取り組みだと思っています。また、結果的に受賞することが
できましたが、大事なことはプレゼン資料の作成・プレゼンの仕方・関係者との
交わりなどをとおして、多くの財産を築き上げたことができたことだと思っています。



内外を問わず大手企業の不祥事が相次いでいます。

誰が何のためにやり、今後どう再発防止をするのかが大事ですが相変わらず
不鮮明のままです。資本主義の過当競争の中では時としてモラルが失われ、企業の信用を失墜する
事態に発展します。しかし、誰の責任なのかははっきりさせないでうやむやの内に時が過ぎ、忘れ去られて
しまうことが多いのは嘆かわしいことです。私も、こういう事態を他山の石として、**モラルを失わない
ように誠実に日々を過ごさなければならない**と思います。

二宮尊徳の報徳思想は、

「至誠:まごころをもって事に当たる」

「勤労:大きな目標に向かって行動を起こすにしても、小さなことから怠らず、
つつましく勤めなければならない」

「分度:適量・適度のこと。家計でも仕事でも現状の自分にとってどう生き、
どう行かか知ることが大切という教え」

「推譲:少しでも他者に譲れば周囲も自分も豊かになる」

とあります。けだし、どんな時代でも大事にしていかなければならない経営の原則かと。



風邪などひきませんように。ご安全に！

代表取締役社長 赤堀 肇紀

三島信用金庫 第5回夢企業大賞

ご存じのとおり、三島信用金庫 第5回夢企業大賞の「ものづくり部門」で当社のテーマ『粉体ハンドリング機器「パウダーワープF」の市場への新規投入』が最優秀賞を受賞しました！

この夢企業大賞というビジネスプランコンテストは、三島信用金庫が100周年記念事業として、平成22年に創設したもので、県東部地域の中小企業の発展、地域経済の活性化に貢献する、期待を寄せる企画です。

今回その第5回目となるコンテストであった訳ですが、これまでで最多となる66件のテーマが寄せられました。

その中から1次選考（書類選考）、2次選考（プレゼンテーション）と選考を勝ち上がり、ものづくり部門の最優秀賞の栄冠を手にすることができました。

写真は、10月5日の表彰式の様子です。

新聞やホームページにも掲載され、PRとしても申し分ないものとなりました。何よりこの受賞は、当社にとって励みになります。

今後もこうした新しい製品・技術を世に送り出し、社会貢献を推し進めていきましょう。



粉体工業展大阪2015

営業部 本社営業 高藤 孝史

粉体工業展大阪2015が10月14日から16日の3日間、インテックス大阪で開催されました。今回の展示会では、皆さんも既にお気づきかと思いますが、完成した新しい総合カタログをイメージしたブースにすることでカタログとの一体感を意識して設営してみました。



また、いつもと違う試みとして技術部にご協力を仰ぎ一緒にブースに立ち来場者への対応をしました。最終日の製品技術説明会には、71名もの来場があり普段の生産設備でフレコンからの粉体抜き取り作業に改善を検討されているかが伺える説明会となりました。

ちなみに事前に発表されていたテーマで多くの来場者が参加されていたので、如何にテーマが重要かを実感しました…。



当社ブースへも、多くのお客様に来場していただきました。これから、来場の御礼を兼ねたフォロー訪問で新たな引合いの可能性があるので、1件でも多くの受注へ繋がっていくように活動していきたいと思っております。

展示会開催にあたり、社内の各部署からの協力により無事展示会が終了したことを報告いたします。ありがとうございました。すでに始まっているお客様へのフォローに対しても、ご協力の程宜しく申し上げます。

技術説明会にて